様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月　 １ 日現在

機関番号：１７１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６３７０１３４

研究課題名（和文）海外の博物館所蔵の生人形に関する研究

研究課題名（英文）Living Dolls in museums in Europe and the U.S.A.

研究代表者
本田　代志子（HONDA, YOSHIKO）

福岡教育大学・教育学部・講師

研究者番号：７０７１３５２７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、海外の生人形作品について、アメリカ合衆国３点、イギリス７点、ドイツ４点、ロシア４点を新たに実見し、資料調査・解読を行った。これらの作品は、外国人が来日して横浜の美術商で購入・寄贈もしくは海外の日本美術商にて購入・収集し、後に寄贈した事例であることが判明した。また人形師の制作形態は三代続いた安本亀八を除き、松本喜三郎、花沼政吉になど個人制作が主体であることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）：In this research new lifelike dolls those are three in the United States, 7 in the U.K., 4 in Germany and 4 in Russia were investigated and the related materials were examined. Those dolls were bought by the foreign visitors in Yokohama or collected at Japanese art dealers in their home towns and after then gifted to the museums, It was traced that the doll makers as Kisaburo Matsumoto and Masakichi Hananuma run their workshop by themselves, excepting Kamehachi Yasumoto whose family had two furter successors. Kamehachi Yasumoto's was well known dollmaker inside and outside the country.

研究分野：美術史

キーワード：生人形　博物館　松本喜三郎　安本亀八　花沼政吉　鼠屋伝吉　博覧会

１．研究開始当初の背景

「生人形」は、1850 年代後半から 1890 年頃の見世物興行で人気を博した大衆芸術であり、後には内外の博覧会やデパートや博物館のマネキンとしての役割を担っていた。その研究は、現存作品や資料発掘等の基礎的な調査が必要な段階であった。

本研究では 1870－1930 年頃にかけて欧米の博物館が収蔵した作品の所在確認、資料調査を行い、多くの事例を収集し、生人形の作品、制作者、それを取り巻く環境等の実態を明らかにすることを目指した。

２．研究の目的

（１）博物館での生人形の購入経緯

お雇い外国人（ホーレス・ケプロン、エドワード・モース等）、来日した外国人（フレデリック・スターンズ等）を主に、作品購入や博物館への寄贈に関する情報を収集し、生人形師や作品情報がどのように伝達・共有されていたのかを明らかにする。さらに、欧米での未見の現存作品や文献資料の調査を進める。

（２）生人形の流通

博物館（ブレーメン市立博物館、フライブルク市博物館等）と、内外の日本美術商（ディーキン兄弟商会、武蔵屋等）や商社（ベルクマン商会等）などの業務書簡により、生人形が恒常的に流通していたのかを明らかにする。

（３）生人形師の規模

海外作品では松本喜三郎、安本亀八、鼠屋伝吉、花沼政吉の名前が判明しているが、他の作品も帰属可能か、あるいは他の人形師への帰属を検討する。あわせて、国内外での作品数、博覧会出品、見世物興行、山車飾りの記録等から制作規模と活動時期や内容の変遷を明らかにする。

３．研究の方法

海外の作品および関連資料の情報を収集し、作品の実見を主に現地調査を進める。

（１）アメリカ合衆国では、スミソニアン博物館、デトロイト美術館、ピーボディ・エセックス博物館、カーネギー博物館等の作品調査、大学図書館等においての資料収集を行う。また、ヨーロッパでは、主にイギリスの V&A 美術館、スノーズヒル・マナーハウス、大英図書館、ドイツのフライブルク博物館等、ロシアのサンクトペテルブルクの博物館で作品調査、資料収集を行う。

（２）日本国内では、国立国会図書館、東京都公文書館、国立歴史民俗博物館、横浜開港資料館、江戸東京博物館等で資料収集を行う。新情報にあわせて、美術館・博物館、個人の所蔵作品の実見も進める。

４．研究成果

本研究の調査過程において新たな作品情報を得て、作品の実見および資料収集の追加を行い、生人形に関する基礎情報の充実に寄与した。

（１）生人形の購入経緯

①日本での購入

ケプロンは、お雇い教師としての日本滞在時に、人形師松本喜三郎に直接依頼したと推定される。当初よりスミソニアン博物館での展示を想定して、貴族の男女の像、および商人の男女の像（実現せず）を依頼し、代金を決めていたことが判明した。制作に 2 年がかかり、アメリカ公使館秘書のスティーブンスによって度々催促がなされていたことも史料により裏付けられた。さらに鼠屋伝吉への農夫婦制作の依頼も同時期になされており、完成作品は自身の帰国時に持ち帰ったと思われる。

またケプロン関係の古文書により、アメリカに帰国後も明治政府関係者や外事課の通訳野口が松本喜三郎の進行状況の報告を行っていたことが明らかとなった。

モース寄贈のピーボディ・エセックス・ミュージアムの 8 体の人形は、箕作佳吉が人形購入の仲介交渉を引き受け、日本橋の斉木次郎兵衛が 1883 年に 25 円で制作したものと判明した。

個人収集家スターンズは、日本各地で土産物店、骨董店などで美術品を広く買い集めており、相撲像も横浜の美術商で展示されていたものを見て購入し、そのままデトロイト美術館へ発送し、寄贈したことが明らかとなった。

デンマーク国立博物館所蔵の女性像は、1878 年に長崎から発送された記録が残り、海外へ渡った事例としては、鼠屋伝吉に続く古いものであるが、制作者等の詳細は不明である。

イギリス人のラッセル・コテスは来日時に小品の相撲像を購入したと思われるほか、自宅のミカドルームに展示した武士像、ほか農民の姿の写真が残され、脚の一部も現存していた。

ロンドンの V&A 美術館収蔵の駕籠にのる女性像は 1960 年代に長崎に滞在していたウィリアム・オルトで、帰国後に本人が寄贈したことが判明した。顔貌および身体は、生人形師とは異なる制作技法である。

ドイツのフライブルクの博物館所蔵品は、館長フィッケが 1909 年に横浜のクーン＆コモル商会で人力車夫、踊り子、神官、僧などを購入している。そのうち踊り子は安本亀八によるものと記録されている。

さらに、直接購入ではないが、サンクトペテルブルクのクンストカメラ所蔵品は、1891 年ニコライ皇太子が京都の川島織物を訪問した際に贈呈されたもので、制作者は京都の細工人山下光一の記銘が確認できた。

さらに、横浜の美術商のディーキン兄弟商会は、出身地であるイギリスのシェフィールド博物館へ、取り扱いのあった花沼政吉の相撲像を寄贈している。これらは、当時のイギリス政府が産業を推進するために、世界各地のイギリス領事に産業品を入手するように指示しており、ディーキンは七宝や漆の作品と合わせて、相撲像の技術の高さを伝えようとしたと考えられる。

上記のように、一般個人が日本で入手した場合は、通訳や英語版の旅行ガイドなど、特定の人々の情報によるところが多かったと思われる。そのなかで、安本亀八、ディーキン兄弟商会の花沼政吉の名前が広く知られていたことが明らかとなった。

②日本人による寄贈

安本亀八の三代目によるアメリカ合衆国のカーネギー博物館の女性像、イギリス・グラスゴーの博物館の男女像が新たに確認された。これらの作品は、前者は渋沢栄一、後者は日本人有志約 40 名によって寄贈されたものである。いずれも現地の博物館で展示されていた「日本人」のマネキンを実際に見て、その質が低いことを嘆き、取り替えるためのものであったことが明らかとなった。そのため、新しい作品は質を重視しており、名高い安本亀八に依頼したと考えられる。

③海外の日本美術商での購入

ドイツのハイデルベルクの民族学博物館では、女性頭部、小像の所在が判明した。これらは日本での菊人形との制作技法は異なるが、菊祭り等への関連が推定される。また当時のドイツの博物館へ多くの作品を販売していたハンブルクの美術商ウムラウフが作成した目録と博物館の関連も今後につながる情報であった。

スノーズヒル・マナーハウス(イギリス)の作品はチャールズ・ウェイド旧蔵品であり、イギリスの骨董商から 1940 年代に購入したと伝えられる。作品の台座にカタカナで「ハナヌマ」と刻まれており、作者は花沼政吉と推定される。これらは他の収集品と共にナショナル・トラストへ寄贈されたものである。

アメリカ合衆国のリプリー・エンターテイメント社が 3 体の等身大の像を所蔵している。まず花沼政吉の自刻像は、横浜のディーキン兄弟商会で制作され、1910 年代にサンフランシスコの美術骨董店に展示されたもので、1934 年にロバート・リプリーが所蔵者となった。その後アメリカ各地で巡回展示がなされている。同じく花沼政吉の別の自刻像は日本に滞在した医師ウィリスの購入品と考えられるが、おそらく子孫がオーストラリアに運び、その後 1960 年代にリプリーの所蔵となる。もう 1 点はイトウハマシなる人形師が 1880 年代に制作されたもので、ハワイでの展示記録が残るものである。これらのリプリー所蔵の作品は、海外の美術骨董店で流通していた品である。

④海外の博覧会出品作品

ドイツのドレスデンで 1911 年に開催された万国衛生博覧会では、日本パビリオンにおいて、安本亀八三代目の制作による家族の 4 体、制服姿の少年少女が出品された。これらは会期終了後に現地の博物館に寄贈され、現在はザクセン州立民族学コレクションに保管されている。

オランダのライデン国立民族学博物館所蔵の作品は、日本に滞在していたブロムホフ、フィッセル、シーボルトの収集品が主である。他の小品に関しては 1898－1906 年頃には、万国博覧会の出品作と思われるものをアムステルダムのアジア美術骨董商から購入していた記録が残されている。

（２）生人形の流通

先にあげた個人購入のほか、生人形を恒常的に取り扱ったのは、横浜の美術商ディーキン兄弟商会、クーン＆コモル商会、横浜と神戸のドイツ系商社でドイツ・ブレーメン市立博物館との取引を行ったベルクマン商会であった。

ディーキン兄弟はイギリス出身でサンフランシスコにて日本美術商を始め、横浜にも店を構え、人形師花沼政吉をはじめ日本の職人と提携し、広く販売をしていた。他の日本美術商では、甲冑に付属したマネキン、あるいは小型の相撲像、職人の像などを販売していた程度とみられる。

他の流通形態は、世界各地で開催された博覧会の出品作品が会期終了後に現地で売却され、それらが日本美術商等を介し、個人コレクターへ販売されたと思われる事例が見られた。

（３）生人形師の規模

調査によって、主要な作家の作品や制作年の詳細がより明らかとなった。

①松本喜三郎

1850 年代後半より浅草で生人形の興行を行い、特に 1871 年に発表した「西国三十三所観音霊験記」が 4 年間続くほどの人気であった。その後、大学東校の依頼による人体模型制作、ウィーン万博出品など広く名を知られ、ケプロンが滞在した時期の第一人者であったと言える。

ケプロン発注の作品は、2 年がかりで完成したが、その制作途中から、喜三郎の制作の信念、遅延や代金など様々なエピソードが新聞等で紹介されるなど、広く関心が寄せられていたことが分かった。

松本喜三郎の東京時代に弟子はいたが、一時的なものと思われ、制作規模は個人で担える範囲であったと思われる。また、人気のある演目は長期興行がなされ、修理等をしながら続けられていたため、次に挙げる安本亀八

に比べ、作品の数量は少ない。

②安本亀八
　安本亀八の三代にわたる活動を幅広く資料調査を行った。中でも現存する初代の相撲像、三代による博物館展示のための像の制作および収蔵経緯が明らかとなった。
　相撲像は、デトロイト美術館へ寄贈された際の書簡等により、横浜での購入経緯、当時の評価、その後の美術館においての受容の変遷が判明した。
　また、亀八は吉原の季節の飾りものや、三代目はデパートのショーウィンドー、博覧会等に幅広く携わっていた。この初代亀八と二人の子による生産体制と長期的な継続という点において、亀八の名は次第にブランド化し、国内はもとより、外国からの来訪者などに知られ、作品寄贈先においても、名人の作品として伝えられたことが判明した。

③鼠屋伝吉
　現在、鼠屋伝吉の作として伝わるものは、スミソニアン博物館に収蔵されている農民夫婦の像である。ケプロンが来日時に依頼し、帰国後、まもなく博物館で展示された。伝吉は松本喜三郎と共にウィーン万博に出品し、現地へ随行、研修を受けるなど、当時では評価の高い人形師であった。ヨーロッパの風俗人形や浅草武蔵屋の人形を制作したなどが伝えられるが、37 歳で病没したため、作品数は少ないと考えられる。また、花沼政吉とは、鼠屋にて同時期に制作に取り組んでいたことが明らかとなった。
　スミソニアンの作品は、その迫真の表現が高く評価され、1893 年の年報に写真入りで詳しく紹介され、マネキン制作において影響を与えていたことが判明した。

④花沼政吉
　花沼政吉はこれまで名前が少し知られる程度であったが、主要作品がイギリスのシェフィールド博物館、アメリカ合衆国のリプリー・エンターテイメント社、イギリスのスノーズヒル・マナーハウス、早稲田大学演劇博物館等で確認された。
　これらの作品流通の経緯は、横浜のディーキン兄弟商会が作品寄贈のために記した書簡やアメリカ各地での広報活動のための出版物によって状況が明らかになった。また、ディーキン兄弟商会が日本美術品のオークション開催する際の主要作品として相撲像が挙げられるなど、注目を集めていた。ディーキンは 3 兄弟で収集や販売を横浜やサンフランシスコで行うなど、大規模に展開し、日本やアメリカ、イギリスの状況をふまえた上で、英文の出版物を多数発行していたため、欧米人の情報収集に有益となり、花沼政吉の認知度が高まったと考えられる。
　またイギリスでは、日本美術収集家トムキンソンが旧蔵していたことも判明した。

⑤その他
　海外に所蔵されている作品で人形師が特定されているものは、リプリー社の男性像のイトウハマシ、モース収集の斉木次郎兵衛、京都の川島織物寄贈の山下光一などがある。国内では小林政吉、花沼政吉の作品が東京で新たに確認した。
　このように、今回の研究では、新たな現存作品や資料の発見によって、作家や美術商についての具体的事例が収集されたため、海外に渡った生人形の流通状況の解明において成果が得られた。今後は人形の作者特定や、人形師の活動のさらなる事例収集によって、全容解明が必要とされている。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計３件）
①本田代志子、ホーレス・ケプロン収集の生人形　鼠屋伝吉と松本喜三郎、文化資源学、査読有、14 号、2016、pp53－63。

②本田代志子、安本亀八の相撲生人形と収集家フレデリック・スターンズ、人形玩具研究、査読有、26 号、2016、pp34－45。

③本田代志子、花沼政吉の生人形とディーキン兄弟商会、人形玩具研究、査読有、25 号、2015、pp98－107。

〔学会発表〕（計１件）
本田代志子、Exhibiting Japan with Iki-ningyo in Ethnology Museums、日韓合同国際芸術研究会、2014 年 12 月 28 日、広島大学、広島県東広島市。

〔図書〕（計０件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）
○取得状況（計０件）

〔その他〕
ホームページ等　なし

６．研究組織
(1)研究代表者
本田　代志子（HONDA, Yoshiko）
福岡教育大学・教育学部・講師
研究者番号：70713527

(2)研究分担者
なし

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
なし